

やつおめて

2022

No.37 (10月号)

編集発行: 和田まちづくりセンター

協力: 和田まちづくりセンター運営推進委員

電話: 45-1918

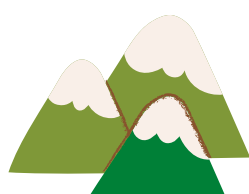
E-mail: wada-k@ph-hamada.jp

～和田地区いろいろ見て歩く記～

ゆ～や～け

こ～やけで

ひ～がくて～



や～まの～

おてらの～



つぬです!

神在月です。色付いた落葉樹の葉やきれいな山々の景色を眺めながら歩いてみるのもいい季節ですね。(つぬ)

小学生人権標語テスト入選作品

勇気はね 仲間をすくう 第一歩

『和田地区の歴史コーナー』

和田地区のお寺紹介(廃寺)⑥

【東向寺(和田)】

元禄3丙子年3月との記録もあるが、丙子は元禄9年で3年は庚午であるからどちらが正しいのか不明である。恵通の開基という。また谷尾茂右衛門の建立ともいう。1892年(明治25年)までは和田八幡宮の西下、屋号清水屋の地にあった。4間半4面草葺きの本堂が東向きに建てられており、廊下で庫裏をつないでいたという。足洗池が寺の前にあった。明治25年再建の話しが持ちあがり、現在の和田郵便局の上ミ西川

西川氏が寄進した寺地の現在の風景



運送店のその西川氏が寄進した寺地に31年になって、寺が再建された。大工棟梁は山本惣五郎、6間4面の本堂であった。丸原覚善寺の14世住職龍山旭忍は覚善寺を実弟心梁に譲り、25年8月東向寺住職として移住し、再建に努力したのである(旭町誌上巻より抜粋)

次回へ続く



！前回のお話しは…

喜一郎は食事中も築造の事で頭をいっぱいにしていて。ミネはその様子を見ながら「もっと味わって食べて欲しいのに」と悲しい目をしてみている。そして、ある決心をして行動に移した…というところでしたね。では、続きをどうぞ！



小谷城へ続いていた道

！ミネの実家

ミネの気持ちも分かっていたから怒る気にはならなかった。ミネの実家は今の金城町宇栗で今市から金城に抜ける森谷トンネルの上の向こう側で、その昔トンネルの上を「宇栗峠」といった。その峠を下った最初の家がミネの実家だった。

文・絵 佐々岡健次

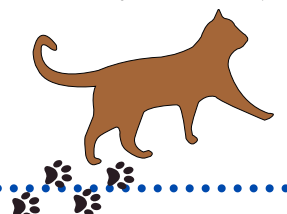
！険しい道…

翌日飯も食わず陽の出る前に下和田を出た喜一郎は加古屋城跡をかすめ「夜泣石」を下り満福寺を過ぎ今市へ。そして小谷城へかかる。そこからの宇栗峠への登りは往来が少なく所々灌木の枝木が行方を邪魔した。腰にした鎌で払っては峠をめざす。七曲りのしわい急坂も喜一郎にとったら、たいした苦ではないのだが…。

！反省の気持ち

実家へ行って又「ことわり」を云わにやらんと思うと気が重い。ミネよわしをこがめに困らせてからになにが面白いんだ。…うんにゃ！！面白くないからわしを困らせているんじゃないかあ…わしが悪いんじゃないわしが！わしがちいともかもうてやらんからじゃろ。自問自答しながら、にが笑う喜一郎。やっと峠を登り切った。

次回もお楽しみに！



長男が中学生になりました！

皆さま、こんにちは。長かった夏も終わりと、バラエティ豊かな経験を持つ多くの先生から教えてもらえますし、何か問題にぶつかった時、個別に相談に乗ってもらえるため、クラスメイトから置いてきぼりになる心配はありません。また、一貫教育なため、高校受験の心配をしなくて良いのも利点です。

さて、アメリカの子どもたちは、8月から新学期が始まります。こちらの小学校は、一年生から五年生までの5年間になります。ということで、我が家の長男ジャメインは、晴れて中学一年生（六年生）となりました。

もちろん、私立の学校は学費も高く、経済的な負担はあります。しかし、長男の長い人生を考えた時、こちらの学校で学ぶことは彼の個性を伸ばし、可能性を広げるためには意味のある、価値のあることなんじゃないかな？と思っています。

さて、新しい中学校では、新しい環境、友達や先生と馴染むまで時間がかかるかな？とかなり心配したのですが…さすがに12歳。あっという間に友達もでき、毎朝早く学校へ行きたい！と親を急かすほど（笑）喜んで登校しています。これから高校卒業までの6年間、クラスメイトや先生方とたくさんの楽しい思い出を作り青春を謳歌してもらいたいと願っています。



ジャメイン君の学校には、制服があり、グレー、紺色緑のポロシャツにカーキパンツの装いで学校へ行きます



こちらでは、中学校へ上がるにあたり地域の公立の中学校へ行くか？私立へ行くか？の選択肢があります。我が家は、家族でたくさん話し合った結果、車で家から10分で通えるクリスチャンの私立中学校への進学を決めました。この理由は、私立の学校ですと少人数制（長男の学年は1クラス15人）で先生方から丁寧できめ細かい指導を受けられるということでした。公立学校は、大人数の生徒がいる中教科書基本の最低限な教育を受けることがほとんどです。しかし、私立学校です



事業所紹介

岩谷住建（和田）



今年は、僕たちが



作成しました！



8月8日（月）はまだっ子共育推進事業「第7回 和田地区の事業所紹介を作成しよう！」を地区内の中学3年生 2名と一緒にを行いました。

今回は岩谷住建（岩谷和文さん）にお願いし、快くご協力いただきました。岩谷さんの修業時代の事や「仕事に対する思い」など子ども達の質問にも丁寧に答えて下さいました。また、墨壺を使い一瞬で直線を引いたりカンナかけなど貴重な体験をさせていただきました。

出来上がった作品は全地域に配布されます。楽しみにお待ち下さい！

やつおもて

2023 No. 38 (1月号)

編集発行: 和田まちづくりセンター

協力: 和田まちづくりセンター運営推進委員

電話: 45-1918

E-mail: wada-k@ph-hamada.jp

～和田地区いろいろ見て歩く記～

た～こ～た～こ

あ～がれ～



か～ぜよく～

うけて～



つぬです!



あけましておめでとうございます。皆さんにとって良い年になりますよう、つぬも心から願っております。(つぬ)

小学生人権標語テスト入選作品

あいさつで 笑顔あふれる 毎日に

〔和田地区の歴史コーナー〕

和田地区のお寺紹介 (廃寺) ⑦

【東向寺 (和田)】

明治年35年3月16日夜、魔炎に包まれて本尊を始め、ことごとくを烏有に帰してしまった。よって今度は寺地をもと神宮寺のあった地に移し明治43年春、本尊の入仏式を行った。旭忍は大正2年2月27日、57歳で亡くなった。東向寺は旭忍の次男篤 (篤忍) が嗣いでいたが、旭忍が苦心再建した寺も篤忍の時、全焼してしまった。本尊だけは和田八幡宮に移し、焼失をまぬがれた。



山門のみ現存している

このような関係で慧築、篤忍ともにこの地を去っている。現在の建物は和田積徳教会の人々が広く寄付を募って再建したもので、本山の命により、久佐の浄光寺住職が管理し、かつ法座を営んでいる。(旭町誌上巻より抜粋)



宇栗峠の ぼたもち



文・絵 佐々岡健次

！ 前回のお話しは…

ミネの実家は今の金城町宇栗で今市から金城に抜ける森谷トンネルの上の向こう側。昔はトンネルの上を「宇栗峠」と云っていた。喜一郎は陽の出る前に下和田を出て、実家に帰ってしまったミネを迎えに行った…というところでしたね。

では、続きをどうぞ！



現在の森谷トンネル

！ 再会！

峠の頂きに朝の光が差そうとしている。頂きの上から宇栗の谷を見下すと杉林の中を、脇に「ふろしき包み」をかかえて登っているのは「オォーありゃあ！ ミネー！」「あっ！ 喜一郎さんかあ…」息を切らせながらミネの顔は明るかった。

！ 感謝の言葉

喜一郎は「ホット」した。ミネは実家の母に、日頃の喜一郎のある事ない事不満をぶちまけて、せいせいした表情だった。きっと母に諭されたのだろう。

「ありがとう、迎えに来てくれたん」と頬笑む。喜一郎は困った表情を見せながらも「うん」と一言言って黙るしかなかった。

！ 好きなモノ

昨日帰るつもりだったんよ…。でもお母ちゃんと話し込んでね…。そういえば、喜一郎さん「ぼたもち」が好きだったから作って持って帰れって云われて。もち米たいてアズキ煮込んでいたら遅くなつてね。2人の間に言葉はいらなかった。

次回 最終回…

お楽しみに！！



相手を思う
気持ちが大切



教子ウィムセットの海外便利第16回



ウィムセット家 NBAを観戦する



文・写真 教子ウィムセット

皆さま、あけましておめでとうございます。
2023年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、皆さまはアメリカのNBA、プロバスケットボールリーグをテレビで見たことはあるでしょうか？私の学生時代は、シカゴ・ブルズに所属していたマイケル・ジョーダン選手の全盛期で彼のダンクシュートを誰もが真似しようとしたものでした。最近では、ワシントン・ウィザーズに所属する八村塁選手が活躍しているため、こちらでは日本人選手にも注目が集まっています。



テネシー州には、メンフィス市（ナッシュビルから車で3時間の場所にあります）にNBAのメンフィス・グリズリーズと言うチームがあり、私たち家族は今回、初めて生の観戦に行ってきました！ダウンタウンにあるスタジアムは、バスケットボールのコートが少し小さく感じられるくらいファンと選手が近い距離にあり、プロ選手たちのプレーをじっくりと観戦できました。特に、長男のジャメインは、中学のバスケットボールチームに入っていることもあり、選手たちがボールを巧みに操り、スピードのある動きに大感激をしていました。とりわけ夫は、

グリズリーズの1番人気で実力のある、ジャ・モラント選手が夫の卒業した大学の後輩であるため、彼の活躍を目の前で見れたことを誇りに思い、大変喜んでいました。また、ゲームが半分終わった後の休憩時間には、地域住民によるパフォーマンスがありました。この日は、“おじいちゃん、おばあちゃんのダンスをお楽しみください”と紹介され、60から80代近くの方たちが若い子ども向けの音楽に合わせ、激しいダンス

をコート上で紹介する催し物もあり、しっかりと楽しませてもらいました。私も年を取ったら彼らのようにパワフルなダンスのできるおばあちゃんになりたいわ…と思ったほどです。メンフィスと言う地域で皆に愛されているこのグリズリーズチーム、これからの活躍がさらに楽しみです。力強いダンクシュートや華麗なドリブル、目が追いつかない速さのボールパスは、NBAの試合でしか見ることはできないため、息子たちには非常に良い刺激となったようです。また、家族で一緒にゲームを観に行き、グリズリーズを応援したいと思います！



3年ぶり！

旭ふる里まつり 2022

11月13日（日）



ご協力

ありがとう

ございました



11月13日（日）3年ぶりに「旭ふる里まつり2022」が開催されました。

外では、産直市さんの新鮮！取れたて野菜が大盛況！！「こんなに入って100円？」と、みなさんカゴいっぱい野菜を入れていました。

市民体育館では、9月に行なわれた陶芸体験教室の作品や手芸教室のみなさんのパッチワーク、生花教室の色とりどりの花の展示に来館された方々は「どれも素敵ね～」と1つ1つ丁寧に見ていました。